

## 前回懇談会以降の委員からの意見

	各委員からのご意見	対応方針
1	限られた資源を有効活用するために、事業をそのまま継続するのではなく、積極的に見直しが求められる。事業は、より効果の高いものへ、より広い範囲に影響が及びものへ、イベントも短期的な賑わいだけでなく効果が実証されるものへなど。	第1期総合戦略においても、行動指針として「①マーケティング志向、本質を見極めた施策提案」、「持続可能の追求と結果の重視」、「アイデアやリソース(資源)が集まる仕組みづくり」を掲げており、第2期総合戦略においても同様の指針を掲げることを予定しています。
2	スマートウェルネスシティやわたのプロモーションについて、一回限りのイベントと言われないように効果の実証が求められる。	
3	順延されてきた市内の空き家数の調査が欠かせない。空き家を資源と見なして、地域再生の手がかり・起爆剤にする必要がある。	平成30年度に空き家の実態調査を実施しており、現在、その結果をもとに、「空き家対策計画」の策定を検討しています。
4	観光について、京都市ほどの外国人観光客は想定されていないと思うが、宇治市などは参考になると思うので、宇治市と比較等をしていても良いのでは。	現在、京都府と山城地域(京都府南部)の12市町村で連携し、「お茶の京都」の取組を推進しています。この取組は、山城地域の特産物である宇治茶のプレミアムブランド化に加え、京都市以外の「もうひとつの京都」として、京都市からの観光誘客を図ることとしております。引き続き、宇治市等とこれらの取組を通じて連携を図っていきます。
5	空き家等を紹介したり、住みよい環境を与える取組を実施することで、子育てのしやすい八幡市を全面的にアピールできるのでは。	空き家の活用については、3の対応方針でお示しするように「空き家対策計画」の策定の中で、検討する必要があると考えております。なお、子育てしやすい八幡市のPRについては、子育て施策の充実を引き続き図っていきます。
6	八幡市においては他の市町に比べ商工業活性化への取組と、支援が少ないように感じています。ぜひ、次期総合戦略の策定において仕事創生に重点を置いていただきたいと思います。	次期総合戦略の計画期間中に新名神高速道路の全線開通が予定されており、そのインパクトを活かしたまちづくりが必要であると考えております。このことから、次期総合戦略では、「文化と暮らしの創生『やわたチャレンジプロジェクト』」を「観光」と「暮らしと仕事」に係る2つの柱にわけることとしております。
7	次期総合戦略の策定にあたり、考慮すべき観点等 (1)SDGs 持続可能なまちづくり (2)交流、関係人口の拡大 (3)官民の交流、協働 (4)地域連携の推進 (5)住むだけで健康になるまちづくり (6)全世代の誰もが活躍できる地域社会	国の第2期総合戦略における新たな視点となっており、本市においても、この視点を踏まえて策定する予定をしています。また、(5)については、引き続き、スマートウェルネスシティの取組を柱に掲げ、推進していく予定としています。